

介護老人保健施設ライフサポートねりま

症例概要 利用者：90歳代 女性 要介護4

病名：新型コロナウイルス感染症治療後、廃用症候群、障害名、歩行障害、ADL障害、難聴。

利用サービス：入所

経過：R5年3月急性期病院より当施設。上記疾患にてADL低下し、前医より自宅退院困難との事で、当施設へリハビリ目的にて入所となる

内 容

自宅復帰を目標として初回入所されたが、ご家族の体調面から自宅復帰が困難となり、特養入所方向となる。

ACPの中で「ここで最後を迎えたい。この施設で看取って欲しい」と意志表出があった。

入所時は喫食率も低く、低栄養状態であったが、プライマリーを中心に嗜好品のコーヒーと柿の種・ヨックモック等を取り入れた補食をご家族協力の元提供し、喫食率・体重も増加していった。

リハビリ目的として回復期病棟の待機待ちとなっていたが、少しずつ喫食が低下し「最後はありがとうと伝えて終わりにしたいです。人に移さないのであれば高級な薬は使わないでください。もう十分です。」とご本人の意志表出もあり看取り契約の運びとなった。

お元気な頃より、お花が大好きで小さな身体で一生懸命車椅子を自走し、ベランダのお花を観賞され、「辛いことがあっても、自分で植えたチューリップを見ると元気になる」と素敵な笑顔が印象的な方だった。

最後まで、天気の良い日には、ガーデンへ外気浴に行き太陽の光や風の心地よさ、お花や木々の香りを感じて頂いた。

綺麗好きで眠前に毎日清拭をされており、白髪の手短髪をセットし、お洋服にもこだわりがあるおしゃれな方だった。

入浴が困難になっても、清拭や洗髪を行い、爽快感を感じられるようにケアを行った。

平時より海外にいる孫やひ孫に中々会えない事を嘆かれていたため、LINE等を使用し少しでもご家族を近くに感じられるように介入した。

看取り契約から約2ヶ月、一時は食事の自力摂取も可能になる程お元気な様子もあったが、少しずつ喫食率が低下し始めた。

アメリカからのご家族の到着までをご本人の意志を尊重し、医療に頼らず小さなアイスを一口ずつ、時間をおいて提供し繋いだ。

無事アメリカの長女も到着されご家族と共に最後の2週間を過ごされた。

最後の時は、ご家族も付きそい穏やかな時間を過ごされた。エンゼルケアにも参加していただけた。退所の際にも、沢山の感謝のお言葉を頂き、後日改めてお礼のお手紙を頂いた。

ご逝去され、時が過ぎても、スタッフの心に残る素敵な方でした。

最後まで、ライフサポートねりまでお過ごし頂きありがとうございました。